

特別展

土田ヒロミ写真展「ヒロシマ・コレクション」—1945 年、夏。

Hiromi TSUCHIDA : Hiroshima Collection, summer, 1945

会期：2025 年 6 月 28 日（土）～ 9 月 7 日（日）



写真家としてのデビュー以来、土田ヒロミ（1939- ）は、一貫して戦後の日本を主題に撮影を続けてきました。なかでも、広島平和記念資料館の被爆資料を撮影した「ヒロシマ・コレクション」は、土田のライフワークとなっており、被爆 80 年にあたる 2025 年だからこそ、土田の写真は日本とその行く末について深く再考する機会を与えてくれるでしょう。

被爆資料の撮影にあたり、土田は、徹底して私的な解釈や情緒的な自己表現を避けようと努めてきました。悲劇的な形象や象徴性を強調するのではなく、身近な衣類や日用品など、資料そのものを記録することに徹し、誰もが認識できる記号的性質を重視しているのです。一方で、それらの記号の下には資料にまつわる具体的なエピソードが写真と同等のものとして添えられますが、そうすることによって土田は、80 年前に広島で起きた大惨事が、現在の日常につながっていることを示唆しようとしています。それらをわたしたち自身の問題として認知するために——それが「ヒロシマ・コレクション」のために選択した土田の方法論です。



《懷中時計》1982 年

寄贈：1975 年 6 月 28 日

寄贈者：二川一夫（二川謙吾さんの長男）

40Φ × 10mm

二川謙吾さん（当時 59 歳）は建物疎開の作業現場へ自転車で向かう途中、観音橋上（爆心地から 1,600m）で被爆。大火傷を負い、熱に耐え切れなくなって天満川に飛び込んだ。やがて川からはい上がり自転車を引いて帰宅するが、8月22日に死亡。この時計は長男の一夫さんが父謙吾さんに贈ったもので、謙吾さんは肌身離さず持っていた。



《弁当箱》1982 年

寄贈：1970 年 6 月 25 日

寄贈者：渡辺茂（渡辺玲子さんの父親）

165×30×110mm

渡辺玲子さん（当時市立第一高等女学校 1 年・12 歳）は学徒動員として中島町（爆心地から 550m）で建物疎開作業中に被爆。翌 7 日、遺体やガレキの散乱する作業現場から姉の桂子さん見つけたもの。ぶんどろ豆の煮物に白米という当時としては贅沢な弁当だが完全に炭化している。遺体は行方不明。



《ワンピース》1982 年

寄贈：1974 年 1 月 30 日

寄贈者：小川リツ（小川節子さんの母親）

570×820mm

小川節子さん（当時 21 歳）は第五師団司令部（爆心地から 790m）で朝の体操中に被爆。縮景園に逃げたが、火の勢いを避け京橋川に浸っているところを兵隊に助けられ、師団司令部に収容された。9 日、似島に転送されたが、11 日に死亡。この絹のワンピースは、上着とモンペの下に着けていたもの。



《サイコロ》2024 年

寄贈：年月日不明

寄贈者：梶野正記

20×20×20mm

梶野正記さん（小学校 3 年生）は、自宅の玄関で被爆。無数のガラス戸の破片が頭や首に突き刺さり、倒壊した家屋の下敷きに。三兄は、正記さんを助け出し背負って母の里へと向かった。母と妹には再会できたが、学徒動員で天神町の建物疎開作業現場にいた中学生の次兄は帰らぬままだった。また、西引御堂町（爆心地から 700m）で被爆した長兄は 12 日に母の里へ来たものの、脱毛が始まり、15 日に死亡。次兄は遺体すら見つからず、天神町の土を遺骨代わりに持ち帰った。このサイコロは自宅で被爆したもの。



《ワンピース》2018 年

寄贈：2005 年 11 月 15 日

寄贈者：高瀬二葉（本人）（旧姓：三戸）

690×980 mm

三戸二葉さん（当時 18 歳）は、7 月 26 日に東京から広島に疎開。母・節子さん（当時 38 歳）と妹・かすみさん（当時 15 歳）と三人共に大手町五丁目の自宅（爆心地から 1,100m）で被爆。倒壊した自宅から脱出。母・節さんは 9 月 1 日に敗血症で死亡。二葉さん、かすみさん共に原爆症で苦しむが後に回復。このワンピースは、二葉さんが被爆当日着ていたもの。このワンピースは節さんが二葉さんのために縫ったもので、母の形見として大切にしていた。

《人形》2024 年

寄贈：2014 年 9 月 3 日

寄贈者：濱田良子（濱田満子さんの妹）

25×65×5mm



寄贈者の姉・濱田満子さん（中学校 1 年生・当時 13 歳）は、動員学徒として鶴見橋西詰の建物疎開作業現場（爆心地から 1500m）で被爆。翌 7 日、父・良一さんと母・ミヨノさんは満子さんを探しに入市、大やけどの満子さんを二葉山で見つけ、8 日に帰宅。満子さんは自分の容体を察し、「私が死んだら、おかあちゃんをみる人がおらんようになるねえ」と話した。満子さんは、髪が抜け、19 日午前死亡。小町で被爆した兄・才さん（当時 17 歳）も同日午後死亡。その後ミヨノさんは 2003 年に 98 歳で亡くなるまで、朝晩の読経を欠かさず、この遺品を大切に守り続けた。

写真家 土田ヒロミ

2025 年は、広島・長崎に原爆が投下されてから 80 年の節目の年です。

1955 年に開館した広島平和記念資料館は、被爆後に残された人々の遺品や破壊の惨状を示す資料を収集・保管・展示しています。写真家・土田ヒロミ（1939-）は、1982 年から 40 年以上にわたり、約 400 点もの資料を継続的に撮影してきました。表現方法は一貫して私的な解釈や感情移入した自己表現を避け、誰もが認知できる身近な衣服や日用品の記号性を重視した即物的な記録に徹しています。その方法論は、80 年前に広島で起きた大惨事が、現在につながっていることを示します。

それぞれの写真には、資料にまつわる物語のテキストが写真と同格に配置されています。写真は現在の表層を写すものですが、文字は過去の記憶を辿ることができます。写真による無言の物語と、言葉によって実際に語られる物語、二つのメッセージが補完しあい、過去の事実を蘇らせます。

資料の一点一点にそれぞれの物語があります。衣類から日用品の品々、玩具、小さな瓦礫や欠片まで、当時の生活風景とその日常が突然破壊され停止したことを想像できるような展示を目指しました。過去への深い理解は、未来への深い想像力をもたらします。1945 年の夏に起きたこと、それらが過去の悲惨な出来事ではなく、現在を生きる世界中のあらゆる人々にとってのリアリティとして共有されることを願っています。



土田ヒロミ氏

1939 年福井県生まれ。福井大学工学部卒業。ポーラ化粧品本舗退社後、フリーランスに。1975 年頃から 50 年間撮影し続ける被爆地ヒロシマのほか、高度経済成長やバブル経済、祭礼や土俗文化などのテーマによって、変貌する日本の姿を表現してきた。代表作に「自閉空間」（'71 太陽賞）「ヒロシマ」（'84 日本写真家協会賞）「土田ヒロミのニッポン」（'08 土門拳賞）。その他写真集に『俗神』（'76）『砂を数える』（'90）『BERLIN』（'11）『フクシマ 2011-2017』（'18）『AGING』（'22）『ウロボロスのゆくえ』（'24）など。東京都写真美術館、横浜美術館、ニューヨーク近代美術館、サンフランシスコ近代美術館、ボストン美術館、カナダ国立美術館、テート・モダン、ポンピドゥ・センターなどに作品が収蔵されている。

開催概要

【展覧会名】 特別展 土田ヒロミ写真展「ヒロシマ・コレクション」—1945年、夏。

【会 期】 2025年6月28日(土)～9月7日(日)

【会 場】 中之島香雪美術館(大阪市北区中之島3-2-4中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階)

【休 館 日】 月曜日(祝・休日の場合は開館し翌火曜日休館)

【開館時間】 10時～17時(入館は16時30分まで)

【主 催】 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

【協 力】 Office Nirvana 土田ヒロミ

【特別協力】 広島平和記念資料館

【お問い合わせ】 TEL06-6210-3766 FAX06-6210-4190(中之島香雪美術館)
<https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/>

公式 HP

SNS



【入 館 料】 一般1,600(1,400)円、高大生800(600)円、小中生400(200)円

()内は前売り・20名以上の団体料金

前売り券は～6/28まで、中之島香雪美術館、フェスティバルホール・チケットセンター、主要プレイガイド、コンビニエンスストア、公式HP(オンラインチケット)で販売します。

記念講演会 「被爆資料を残すこと、伝えること」※通訳なし

講 師：土田ヒロミ氏、豆谷 利宏氏(広島平和記念資料館副館長)

聞き手：有木宏二(香雪美術館副館長)

日 時：7月27日(日)14時～15時30分 会場：中之島会館(当館隣)

参加料：500円(展覧会観覧には別途入館料が必要)

定 員：280名(事前申し込み制・先着順)

受付開始：6月28日(土)

応募はこちらから



こども無料DAY この日程に限り小学生～大学生まで入館無料！(保護者は有料です)※学生証をご提示ください

この日はおはなしも、笑うのも、泣くのもOK!!

開催日：8月1日(金)～31日(日)

アーティストトーク 作家本人が作品について解説します！

日 時：6月28日(土)、7月26日(土)、8月30日(土) ※いずれも15時30分から1時間程

場 所：展示室内にて

参加料：無料 ※参加は無料ですが、入館料が必要です。

夜間特別開館

開催日：7月4日(金)、25日(金)、8月6日(水)、15日(金)、29日(金)

時 間：10時～19時30分(入館は19時まで)

展覧会図録



販売価格：3,300 円（税込）

ページ数：92ページ（全59作品掲載）

◆A3サイズ(42×29.7cm)の大判図録です。写真の鮮明さ、迫力をお手元で感じていただけます。

◆専用の手提げビニールも付いているので、お持ち帰りもスムーズ！

◆付属の綴じ紐は黄色と水色の2色からお選びいただき、ご自身で結んでいただけます。

◆ミュージアムショップ、オンラインでご購入いただけます。(紐もお選びいただけます)

※図録掲載作品は展覧会出品作品と一致しません。

広報画像使用申込書

画像使用の注意事項

ご希望の方は申込みフォーム(下記二次元コード)または本紙をメールかFAXにてお申込みください。

- ◆企画書など概要がわかる書類の提出をお願いします。
- ◆原稿および記事については、確認のため、掲載前に広報担当宛てにお送りください。
- ◆掲載・放送後は、掲載誌等の送付をお願いします。
- ◆画像の名称(作品名)、指定、展示期間、所蔵元、クレジット(ある場合)を記載してください。
- ◆サイズは、(web掲載用)長辺 1000px 100dpi (紙媒体用)長辺 1000px 300dpi まで。
- ◆トリミング、文字のせはしないでください。
- ◆web掲載の場合、掲載期間を最長 6 ヶ月とし、その後は削除をお願いします。
それ以上の期間掲載をご希望の方は、再度ご連絡ください。



申込みフォーム



①



②



③



④



⑤



⑥

- | |
|--|
| ① 土田ヒロミ 〈ヒロシマ・コレクション〉
《懐中時計 寄贈者：二川一夫 広島平和記念資料館所蔵》1982 年 ©Hiromi Tsuchida |
| ② 土田ヒロミ 〈ヒロシマ・コレクション〉
《弁当箱 寄贈者：渡辺茂 広島平和記念資料館所蔵》1982 年 ©Hiromi Tsuchida |
| ③ 土田ヒロミ 〈ヒロシマ・コレクション〉
《ワンピース 寄贈者：小川リツ 広島平和記念資料館所蔵》1982 年 ©Hiromi Tsuchida |
| ④ 土田ヒロミ 〈ヒロシマ・コレクション〉
《サイコロ 寄贈者：梶野正記 広島平和記念資料館所蔵》2024 年 ©Hiromi Tsuchida |
| ⑤ 土田ヒロミ 〈ヒロシマ・コレクション〉
《ワンピース 寄贈者：高瀬二葉 広島平和記念資料館所蔵》2018 年 ©Hiromi Tsuchida |
| ⑥ 土田ヒロミ 〈ヒロシマ・コレクション〉
《人形 寄贈者：濱田良子 広島平和記念資料館所蔵》2024 年 ©Hiromi Tsuchida |

取材者	会社名	担当者名(連絡者)	
	住所 〒	TEL	
	E-mail	取材人数 名	
媒体	種別 ☐ テレビ ☐ ラジオ ☐ 新聞 ☐ 雑誌 ☐ その他 ()		
	番組名・コーナー名		
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分		
備考			